

1 研究主題

主体的に学ぶ意欲を高めるための取り組みの考察
～授業の工夫，ICT機器の活用～

2 主題設定の理由

(1) 評価観点の変更から

本年度から観点別評価の観点が変更となり以前の4観点から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ態度」の3観点となった。その中で「主体的に学習に取り組む態度」は知識及び技能を習得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりするために，自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなどの姿勢について評価することが重要となっている。そこで，生徒たちが自ら学ぶ意欲を高めていくための授業方法はないかを検討していくために本研究主題を設定した。

(2) ICT活用の観点から

タブレットが一人一台配付されているため授業でうまく活用することにより生徒たちの理解や興味・関心を高めることができると考えICT活用を積極的に授業に取り入れていく。本校の現在の取り組みとして，ミライシードを活用した課題の取り組みやTeamsに課題を投稿し生徒たちに課題を取り組ませることを行っている。

(3) 学習指導要領から

本研究主題は平成29年告示中学校学習指導要領の教科の目標(2)を受けて設定した。

「社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会にみられる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。」

授業内で思考する場面を設け，意見を交換することで社会的事象に対しての自分の考えと合わせより多角的に物事を判断する力がつくと考えられる。

また，ICT機器の活用を進めることで，社会的事象に対して即座に調べることや様々な考え方を調べることができ，それによりより深い学びにつながる事が考えられる。

(4) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見出し，自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本研究は，上記の主題を受けて設定している。ICT機器を活用し自らの思考をより明確化し，周囲との話し合い活動を進めることによりより深い学びにつながる事が考えられる。また，授業内で思考する場面を多く設けることにより，様々な場面で社会的事象以外に対しても意欲や関心が高まり，自分なりに考える力がつくと考えられる。それにより，生徒自身の生きる力が育まれると考え，本研究を実践していく。

(5) 生徒の実態から

本校は、全校生徒670人(全23学級, 特別支援含む)から成り立っている。生徒の社会科に対する実態を把握するためアンケート3学年(121名)を実施したところ以下のような結果となった。

A: はい B: どちらかといえばはい C: どちらかといえばいいえ D: いいえ

①社会科の勉強は楽しい

A: 64人(53%) B: 35人(29%)

C: 21人(17%) D: 1人(1%)

②社会を学習すれば、自然や歴史、ニュースが分かる

A: 60人(50%) B: 51人(42%)

C: 9人(7%) D: 1人(1%)

③身の回りのことに社会科の学習が役立っている

A: 44人(36%) B: 60人(50%)

C: 16人(13%) D: 1人(1%)

④大人になっても社会科の知識は必要だ

A: 78人(65%) B: 37人(30%)

C: 5人(4%) D: 1人(1%)

どの質問に対しても肯定的な意見が8割を超えており、社会科に対する意欲は高いように見受けられる。③、④に対して多かった意見として、「社会に出た時に必要になってくるから」「公民分野は大人になってから必要なことがたくさんあるから」などの意見が多く挙げられていた。

ただ、肯定的な意見が多い中でも苦手意識をもっている生徒が見られた。「覚えることが多いから苦手」「なかなか覚えられない」「授業は楽しいけど覚えるとなると大変」など覚えることへの苦手意識が多く挙げられていた。

今回のアンケートの結果から最高学年として入試に向かう姿勢も高めていく必要がある。そのため、高い意欲を維持するための授業の工夫を行い、明確な課題をもつことで自ら学ぶ姿勢を確立できるのではないかと考える。

また、今年度一学年に同様のアンケートに加え、以下のICTに関する調査を行った。

Aはい Bどちらかといえばはい Cどちらかといえばいいえ Dいいえ

①社会の勉強は楽しい

A 12人(38%) B 15人(48%) C 3人(13%) D 1人(1%)

②社会を学習すれば、自然や歴史、ニュースが分かる。

A 9人(30%) B 17人(55%) C 4人(13%) D 1人(2%)

③身の回りのことに社会の学習が役立っている。

A 7人(22%) B 12人(38%) C 9人(29%) D 3人(11%)

④大人になっても社会の知識は必要だ。

A 15人(48%) B 12人(46%) C 1人(3%) D 3人(3%)

⑤新聞を読む。

A 1人 (3%) B 3人 (11%) C 9人 (29%) D 18人 (57%)

⑥ニュースをよく見る。

A 17人 (54%) B 12人 (40%) C 1人 (3%) D 1人 (3%)

⑦学校用タブレットの使い方が分かる。

A 8人 (27%) B 16人 (51%) C 7人 (22%) D 0人 (0%)

⑧家庭でタブレットやパソコンを使い学習することができる。

A 9人 (29%) B 7人 (22%) C 7人 (22%) D 8人 (27%)

3 指導観

アンケートの結果から覚えることへの苦手意識もうかがえる。そのため、生徒の高い意欲を維持しつつ苦手意識のある覚えることに対して意欲的に取り組める手だてを考察していく。

そこで、生徒の意欲を維持しタブレットを利用し生徒たちが社会的事象に関心を持ち自ら学習に取り組む態度を養う授業を考えていく。

4 研究の目標について

授業の工夫を行い、自ら主体的に学習に励む姿勢を育てる。その手立てとして、ICTを活用しての授業改善を行う。

5 研究仮説と手立て

【仮説1】

授業ごとに取り組む課題や振り返りを行い、学習した内容を考えさせることで、自ら学ぶ姿勢が育つだろう。

〈手だて〉

- ・本年度は社会科の授業で自己評価カードを書かせる。それにより、自分たちが何を学習したのか、また、これから何について学習していくかを具体的に考えさせる。授業で学習した内容の理解をより深めることができると考える。
- ・授業ごとに前時の復習として5問テストを実施する。それにより、覚えることへの苦手意識をもっている生徒の困難さの軽減を図る。

【仮説2】

ICT機器の活用によってうまく意欲を高められないか

〈手だて〉

一人一台配付されているタブレット端末を活用していく。それを授業で活用することで自ら学ぶ姿勢が確立されていくことが考えられる。

授業の導入やまとめでタブレットを活用することで単元のまとめをより明確にすることができると考える。

また、授業内でタブレットを活用することで周囲との意見の共有や情報の共有を図ることができると考える。

6 研究の内容・方法

(1) 自己評価カードの活用

授業ごとに自己評価カードを記入する。記入する内容として、①授業の振り返り②学習した内容③これからの学習に生かせることを記入する。より具体的に記入することでこの先の学習の明確化を図る。

また、授業ごとに復習の5問テストを行い、基礎知識の定着を図る。5問テストに出す内容は教科書の見開き1ページで5問とする。

(2) ミライシード・T e a m s の活用

個人のタブレットに入っている。T e a m s とミライシードを授業内で活用していく。単元の導入となる課題をT e a m s 内に投稿し、生徒たちが一人一人自分の考えをそこに打ち込んでいく。そのバズ学習で意見を交換することで自身の考えを深めていく。

なお新型コロナウイルス対策として対面しての話し合いは行わず、自席にて自分の意見を発表する。班員の意見を聞き、自分のワークシートにそれをもとに感じたことを打ち込む。

ミライシードではムーブノートを活用する。生徒たちの1つの課題を設定し、各自で自分の考えを打ち込ませる。その後授業のまとめとして、学級で挙げた意見を全員で比較する。その後、学級の意見を踏まえ、自分の考えをまとめとして打ち込む。

(3) 定期テストでのレポート課題の実施

本年度社会科の定期テストではレポート課題を生徒たちに取り組みせ、自分の言葉で学習した内容をまとめさせた。また、そのために授業内でも生徒たちに重要となる単語や流れを事前に説明をした。レポートの内容から、どれだけ単元について理解が深まっているかを確認する。

7 仮説の検証・授業の実際

【仮説1】

毎授業取り組む課題や振り返りを行い、学習した内容を考えさせることで、自ら学ぶ姿勢が育つだろう。

【検証1：自己評価カードの活用をすることで授業の学習内容を自ら考えることができる】

授業開始5分程度で前時の復習として5問テストを実施した。5問テストの内容としては、前時の重要語句や基本語句を中心に出题した。

その結果、生徒たちは社会科の授業前に自ら席に着き、教科書から重要語句や出るであろう問題を自ら予想し自発的に社会科の学習に取り組む姿が見られた。3年生ということもあり覚えることが直接入試に絡むこともあってか休み時間を活用し教科書を開き、友達同士授業で取り扱った内容を確認しあう学び合いの姿も見受けられた。

授業の最後に自己評価カードに本時で学習した内容をまとめさせる時間を毎時間設けた。その結果として、初めは数行程度しか書かなかった生徒が徐々に自分の考えや気になる部分を細かく記入するようになった。

また、自己評価カードを記入させることにより、生徒が授業で分かりづらかった部分や気に

なる部分を教科担任が把握することにもつながった。

始めはどの生徒も数行程度の記入となっていました。

社会科自己評価カード						No. (/)
日付	4/12	学習内容	社会の評価について			
自己評価	A・B・C	発言	1回	忘れ物	なし・あり()	3/5
覚えたこと・気づいたこと・感想						
授業の流れが分かったのと、昨日からの一年間、かなり授業を うける。						

自己評価カードを記入させることで、自分の考えや、授業で気になる部分を記入する生徒が多くみられるようになった。

社会科自己評価カード						No. (/)
日付	6/30	学習内容	日本の高度経済成長			
自己評価	A・B・C	発言	1回	忘れ物	なし・あり()	5/5
覚えたこと・気づいたこと・感想						
高度経済成長があったのに、オイルショックによって急降しちゃったの(と)とわかってました。もし今も 続いていたらどうなっていたんだろう...と思いました。また、10%の成長したのに、今は-1%で、713と ありあふれるかと思うと...ほんたにたまたまか...。である。						

【仮説2】

ICT機器の活用によってうまく意欲を高められないか

【検証2：ミライシードや Teams の活用により、生徒たちはより学習に取り組みやすくなるのではないか】

単元の導入・章末課題にミライシードや Teams を活用することで ICT 機器の利用になれること、自らの考えを整理しやすくなるのではないかと考え活用した。

導入として Teams に課題を投稿し、生徒たちに自らの意見をワークシートにまとめさせた。生徒たちは教科書を見ながらワークシートに熱心に取り組む姿が見られた。

教科書やノートに書かせる時よりも、話し声や集中力が切れる生徒が少なく、意欲的に取り組む生徒の姿が多くみられた。

だれを市長に選ぶ？（教科書 p.76~77）

1. もしあなたがS市の市民だとしたら市長選挙でだれに投票するでしょうか。資料1~3と市民の声を参考にしながら、自分の考えをまとめましょう。

●投票する人< D 候補 >

2. その候補者に投票する理由について、グループで話し合い、下の表(マックス)を使って整理しましょう。

	利点	問題点	資料1~3と 「市民の声」の反映
A 候補			
B 候補			
C 候補			
D 候補	暮らしやすいまち 世代間交流 介護サービスの充実と子育てしやすい	費用が高い 保育所と介護施設が増える	アンケートで一番 高齢者が住みやすい お金がかかる

3. 4人班で話し合い誰に投票するか決めましょう。その候補者に投票する理由について話し合いましょう。

◆考えるヒント：効率(字算を無駄なく使って市民の満足度を高める)と公正(市民のさまざまな利害に配慮すること)の観点。

●投票する人< A 候補 >

- 環境が良くなる
- 利用が増えることによって、人口が増える
- 遊樂場所になる
- 町が楽しくなる
- 安く

4. 今日の授業の感想や、政治についてこれから学習していきたいことをまとめましょう。

- どの候補も利点や問題点があり、選ぶのが難しかった。問題点がなくなれば良いと思う
- 一人一人の意見や、投票がすごく大切だと思ったので、将来投票していきたいと思う
- 選ばれなかった候補者がかわいそう。候補者が頑張ってくれるので、私も何かしら役に立ちたい

タブレットを活用することで打ち込む時間はかかったが、生徒たちはタブレットに打ち込んだ自分の意見をもとに自らの意見を発表し、その理由までスムーズに伝えることができた。今回のワークシートでは自らの意見を発表し S 市の市長を学級として誰にするかを考えさせた。個人の意見から4人班としての意見をまとめ、最終的に学級としてどの立候補者を市長にするかを考えさせた。

どの班からも的確な理由をもとに立候補者を選んでおり、意見を整理整頓し簡潔に意見を述べることができた。

同様に単元のまとめの活動として同系統のワークシートを活用し、章末課題を設けた。

S市の市長になって条例を作ろう（教科書 p.122~123）

1. 教科書 p.122 の S 市の市長になったつもりで、理想のまちを創るために、課題を解決する「条例」の案を作って議会に提出しよう。

●S市の課題と解決策について考えましょう。

優先するべき	優先するべきであると考えた理由
「市民の声」 介護施設をつくる 保育園をつくる	お年寄りと子育てが大変だから
優先するべき 「S市の課題」 解決策	番号< 4 > お年寄りも子育てをする人も住みにくい 介護施設をつくる 保育園をつくる 認定こども園をつくる
条例案	子育てについて教わることのできる施設をつくる 保育士や介護してくれる人を積極的に受け入れる
条例によって 実現する 理想のまち	高齢者が安心して暮らせる 待望児童が産める 子育ての環境が整う

○この条例によって、恩恵を受けられない人や、権利を制限される人はいないでしょうか。もしいる場合には、救済策を考えましょう。

上記の人は()にいる。()にいる
→いる場合は救済策 賛助金を市から出す

●あなたが暮らすまちの課題と解決策について考えましょう。

あなたが暮らすまちの課題	ごみ問題
解決策	ガラスがあさらないようにゴミネットではなく入れ物にする 分別収集を見直す リサイクルを積極的にする
条例案	ゴミネットではなく入れ物式 回収の人が集めやすいようにゴミの分別の徹底 リサイクルの活動に積極的に参加する
条例によって 実現する 理想のまち	街がきれいになる リサイクルの活動により循環社会の実現 ゴミの回収が楽になる

2. 第3章の探究課題「平和な社会を築くために、私たちはどのように政治に関わるべきでしょうか。」を解決しよう。

私たちは、市が決めたことには積極的に言い、私たちの考えを政治に反映される仕組みが整えられているとおもってから再判断が必要。
また、選挙活動に参加して自らが政治に参加する
べきである。

生徒たちは教科書の単元を見直しながら必要と思われる単語を抜き出し、ワークシートに内

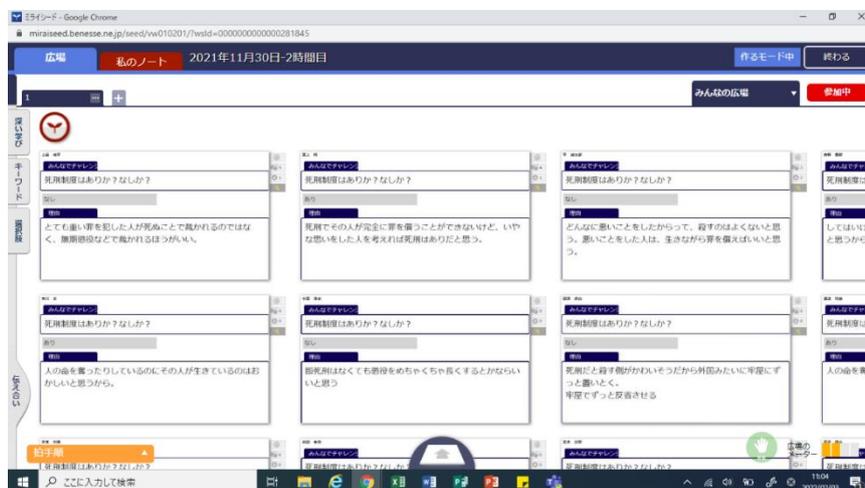
容を記入することができた。

また公民分野ということもあり、今後自らが生活している市町村ではどのようなことが必要になっているか、自分たちが何をしていかななくてはならないのかを考える生徒も見られた。

導入や章末課題として Teams に課題を投稿し生徒たちに取り組みさせることで、生徒たちの進度が把握することが容易であった。また、データとして生徒たちに保存をさせているため、課題に時間がかかり最後まで取り組むことができなかつた生徒も未提出ということはなく、取り組んだところまでを評価することができた。

ミライシードの活用として授業内で生徒たちそれぞれの意見を集約するときに活用した。今回実施した内容としては「死刑制度はありかなしか」を生徒たちに考えさせた。

ここでは、ミライシードのムーブノートを活用し生徒たちの意見を比較し、学級としてどのような考え方があるかを生徒たちに比較させた。



始めは学級内の意見を比較し学級にはどちらの意見が多いのかを確認した。また、級友の意見を見て、自らの考えと異なる意見を比較することで、多角的、多面的に理解を深めることができた。

学級の意見をモニターに写した際には「こういう考えもあるのか」「なぜそのような考え方になったのか」など生徒同士でさらに意見を深める姿も見られた。

8 結論

【検証1より】

自己評価カードを取り組みさせること生徒たちの社会に対する意欲は高まったように感じられる。そこが感じられた点として5問テストの活用と自己評価カードでの授業の振り返りの2点である。

5問テストを毎授業行うことで、生徒たちは自ら教科書を開き重要単語の意味や、社会の授業で重要だと話した内容を振り返るよききっかけとなった。それにより、知識として覚えている語句を増やすことができ、生徒たちに投げかけた単語の意味や、語句を答える問いに答えることができるようになった。また、休み時間等を活用し社会科の単語をお互いに確認し合う、学び合い活動が見られるようになった。

次に自己評価カードでの振り返りだが、生徒たちは自分の考えや気になることを記入したた

め、自分自身が気になる部分や大切だと思うこと、授業の内容について改めて振り返るよい取り組みとなり、定着につながった。

【検証2より】

Teamsでワークシートを取り組ませることにより課題の未提出等はなくなった。データとして保存しているため、課題が途中となってしまう生徒も個人内の評価を行うことができた。また、ワークシートを見ながらペア学習や少人数班を進めることができた。生徒たちは紙のワークシートよりもタブレットを活用したワークシートの方が真剣に取り組む姿が多く見られた。また、タブレットを活用することで、わからないことや気になることをすぐに調べることができたため、より細かな部分まで自分でまとめることができた。

9 研究の成果と課題

○授業前に自分たちで着席し、社会科の学習に意欲的に取り組む生徒が増えた。また、授業前に必ず単語テストを行うため、教科書を自分で開いて復習する習慣がついた。継続して取り組むことにより、重要語句は多くの生徒に定着した。

○タブレットを活用することにより、生徒たちは積極的に学び合う姿が見られた。また、わからないことがあれば、タブレットを活用し調べることもできたため、課題解決学習には非常によい取り組みだったように感じる。

それにより、自信がない部分は自分で調べ、間違いがないことを確認することで話し合いでは自分の意見に自信をもって発表することができた。

○自己評価カードの活用や、レポート課題を課すことで、自分の言葉で社会科に関する事象についてまとめる力がついてきた。また、自分の考えを明確に伝えることや話すことが以前よりもスムーズに行うことができるようになった。

▲タブレットを活用することで生徒たちは意欲的に取り組むことができたが、画面をすべて掌握できているわけではないため、事前指導や机間指導が必要に感じる。

⇒今後年度始めにICTに関する授業を学年や全校で行い。ICTの利便性と危険性を理解させたうえで学校ではどのように活用していくか指導を進めていく。

▲タブレットを活用した場合と、活用しない場合とで授業時数に変化が見られた。タブレットを活用しての授業の方が、授業時数がかかってしまった。

⇒小学校の授業でもタブレットを活用した授業を行っている。そこでタイピング練習も行っているため、小中連携を密にしどの程度の指導をしていくかを検討していく。

▲自己評価カードやレポート課題を書かせるうえで評価の基準となる部分をより明確にしていく必要がある。評定をするうえで、何を書いていけばAなど事前に教科内で検討する必要がある。

⇒教科内で年度初めに検討し、明確な評価基準を示す。

▲①授業ノート②自己評価カード③タブレット活用のワークシートなど評価資料がいくつにも分かれているが、実際生徒たちが自分でまとめたものを復習等に活用しようとしたときに何

を参考にすればいいかが多岐に分かれているように感じる。
生徒の取り組みが一括でわかるようにまとめられ、すぐに活用できる方法がないかを検討していく必要がある。